

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和４年度第１回高松市創造都市推進審議会
開催日時	令和４年８月８日（月） １４：００～１６：００
開催場所	高松市仏生山交流センター会議室１１
議 題	（１）第２次高松市創造都市推進ビジョンにおける令和３年度実績について （２）その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	佐々木会長（オンライン）、真鍋副会長、西成委員、大久保委員、三井委員、中西委員、香西委員、橋本委員、原委員、植中委員、篠田委員、杉ノ内委員、渡邊委員
事務局	中川創造都市推進局長、一原創造都市推進局参事、塩田産業経済部長、次田文化・観光・スポーツ部長兼文化芸術振興課長、川畑文化財課長、樋口こども未来館副館長、上原市場管理課長補佐、今池産業振興課長、平井産業振興課長補佐、岡本産業振興課創造産業係長、伊藤産業振興課主事
傍聴者	０ 人 （定員 ３ 人）
担当課及び連絡先	産業振興課 創造産業係 ８３９－２４１１

審議経過及び審議結果

- 1 開会
（事務局から開会挨拶）

- 2 議題（１）

【会長】

それでは、議題（１）について議論を進めていきたい。事務局から配布資料の説明をお願いしたい。

（事務局から配布資料【資料３】について説明）

【会長】

それでは、次に、今回、事前に議論すべきテーマをいただいているので、資料の御説明をお願いしたい。

【委員】

提案させていただいた中で、２点に絞って説明する。全体的な所感として、新型コロナウイルス感染対策のため、中止を余儀なくされた事業があるが、制約を受ける中で、関係部署が努力を重ねて実行していることに敬意を表したい。

１つ目に、高松市美術館こどもアートスペースに関しては、情操教育の一環として大切な取組である。童話作家ディック・ブルーナの作品展示期間中に、立ち寄ってみたが、親子連れで大変にぎわっていた。年間を通して、フェアやワークショップを開き、画材などを増やし、もっと充実したものとしてほしい。予算・実績ともに、年間で１９５,０００円となっており、子どもの情操教育の向上を考えると、この倍に増やしてもまだ少ないのではないか。もっと予算を増やしたらいいと思う。是非ご検討いただきたいと思う。

２つ目に、高松ブランド農産物育成支援事業について、皆さん御存知のように、「さぬきの夢２０００」は、うどんで有名になっているが、これを皮に使った餃子が最近開発され、発売されているということを知り、１度食べてみたいと思っている。これについては、オリーブ牛やオリーブ豚などを使いながら、「さぬきの夢２０００」を使った皮のさぬき餃子ブランドを確立させてはどうか。

【会長】

ありがとうございました。

それでは、担当課から回答をお願いしたい。

【事務局（産業振興課）】

本日、担当課の美術館と農林水産課が、出席していないので、事前に回答をもらった内容をお伝えさせていただく。

まず、美術館の方だが、子どもたちが美術を楽しみながら、豊かな感性を養うための機会を提供することは、美術館の重要な役割の一つである。このようなことから、子どもたちが気軽に参加できる美術体験プログラム等に「こどもアートスペース」を活用しているが、今後においては、これらに加え、特別展との関連など様々な機会を捉えて、子どもたちの情操教育のため、限られた予算の中で、魅力のあるワークショップやイベントの開催に努めたい。

次に、農林水産課の方の回答だが、現在、高松産ごじまん品として30品目が認定されているが、麦（小麦）については、認定されていない状況。しかしながら、麦については、本市の重要な推進品目と考えていることから、今年度、生産者などで構成した協議会において新たに「高松産ごじまん品」として、麦の認定を検討しており、併せて、高松産の麦及び麦の加工品のブランド化について検討してまいりたい。

【会長】

配布資料、それから今、説明をいただいた件について、参加の委員の皆さんから御意見をいただきたい。

【委員】

先ほどお話があった、さぬき餃子は、かがわの食ハッピープロジェクトの商品のなかに入っているのですが、県が、昨年から推進していると思うが、高松市が推している品目の中に、麦（小麦）入っていないということだったが、現在、高松市が推している品目には、どのようなものがあるのか教えてほしい。

【事務局】

本市のごじまん品はイチゴやみかんといった農産物、それからお米といったものを中心に、農協や生産者の皆さんと一緒に30品目を認定している。大きなスーパーで売り出したり、給食の食材に提供したりしており、更にアピールしたい。

なお、県の取組として、20店舗程の中華料理店で、皮は「さぬきの夢2009」を使った餃子を提供している。それぞれの中華料理店で、味が違うので、機会があればぜひ行っていただきたい。

本市のごじまん品の中には、麦に関するものがまだないが、餃子のような形にしたり、あるいは加工したものについてPRできるよう、指定を検討していきたい。

【委員】

8月5日にやしまーるが屋島山上でオープンしたが、一般の方や一般団体がいつから使用できるのか。また、いつごろから使用が可能か案内や告知があるのかを教えてください。

【事務局】

多目的室については、一般の方に貸し出す。貸出料金について1時間当たり1,000円、営利目的については3倍の予定と聞いている。指定管理者の準備ができるまでしばらくお待ちいただきたい。

【委員】

環境の方で委員もしており、何かできないかということで、高松市に相談したところ、環境総務課で、塩江の里山学習を秋に行っている。高松から塩江に向かうバスを出していて、そのバスの中でガイドをしている。

高松市の中で、観光交流課と環境総務課というような形で、いろいろな課が一緒になって、何か1つの事業を組み立てていくというような広がりのあるような事例があれば教えてください。

以前もお話したが、何か1つのことに対して1つの課とかではなく、要素を組み合わせることができる、何かイベントを創り出していくというのが、そもそも創造都市を作っていくということじゃないかと思う。

また、ふらっと仏生山のホールは拍手がすごく響く。ここで歌ったら、騒音にしか聞こえないのではないかと思う。実際、ここはどのような形で使うのがベストなのか。何かビジョンがあって作ったのなら、そこが知りたい。指定管理者が入っていると思うが、指定管理者の方からでも構わないが、このような形で使ってみませんかという提案をもらったら、新しい事業を考えることもできるのではないか。

コンサート活動があったということも聞いていないので、参加された方の意見とか集約したものがあれば、ぜひそこを教えてほしい。

【事務局】

観光交流課と環境総務課の連携の話があったが、昔、観光関係のイベントの中で、環境学習的な、要は観光交流課がするような事業ではなくて、環境関係の専門家を講師に招いたような講座があったかと思う。

美術館においては、美術館と文化芸術振興課が連携して、美術館のエントランスホールを活用して街クラシック in 高松という、音楽のイベントの事業をやっている。他にも、様々な文化関係で、美術館と文化芸術振興課がコラボすることはある。

過去の事例でいうと、高松丸亀町商店街に高松市美術館ブランチギャラリーという、商店街内のギャラリーを設けている。そこでアーティスト・イン・レジデンスをやったり、昨年度は国の交付金を活用したりして、アーティストを募集し、そこで作品を作っていたこともある。

市の1つのセクションだけではなくて、関連するセクションが結びつきながらやることによって、人のつながりが増えてくるかと思う。我々が見えてないところを、他のセクションと一緒にやってやることで見えてくることがあると思う。いただいた意見は本当に貴重だと思っている。

【事務局（産業振興課）】

先ほどのふらっと仏生山についての紹介だが、参考資料で、ふらっと仏生山のコンセプトを、ホームページから抜粋して記載しているが、からだところの健やかな交流というところで、施設のコンセプトはできているので、活用いただきたい。

今後、創造都市推進局としても、何らかの形で、ここも活用して創造都市を推進できればというふうに考えている。

【委員】

私たちの法人で、環境省や観光庁の予算を使って、いわゆるサステナブルツーリズムというコンセプトで、土地の魅力をもう少し深掘りするお手伝いということで、魅力に富んだ地域という視点でプランをいくつ

か作って、モニターもやろうではないかという話がある。これからの時代、観光交流課だけに限らず、産業振興や自然保護活動にも広がる横断的な事業体制にしたい。多面的なツーリズムができるので、合わせ技で地域の魅力をブラッシュアップできるとよい。

【委員】

創造都市推進局ができたときには、組織の垣根のない、いわゆる横軸で動ける、素晴らしい局になるのではないかと思った。横軸で動くのは、素晴らしいことだと思う。

盆栽を返礼品で扱いたいと、市のふるさと納税の担当を紹介されて始まったが、ふるさと納税のホームページを見ると、創造都市推進局に絡みのあるものが非常に多い。

例えば、創造都市推進局の中でチームを作って、返礼品を検討するのはどうか。高松は、素晴らしい特産品がたくさんあり、また、様々な体験やストーリーがあるので、それをふるさと納税の担当に紹介するようになれば、高松市のふるさと納税収入がプラスに転換していくのではないかと思うが、どうだろうか。

【事務局】

本市のふるさと納税の実績として、令和3年度は、8億6,000万円程度の寄付をいただいている。しかしながら、高松から他自治体への納税金額の方が多というのは事実である。

一方で、令和元年度が約2億円、2年度が約6億円、3年度が8億6,000万円ということで、ここ2、3年でかなり大きく伸びている状況である。新型コロナウイルス感染症の影響による巣ごもり需要により、全国的にふるさと納税の需要が上がり、高松もその恩恵を受けている。

全国的な伸びよりも高松は伸びていて、農産物や果物・野菜が主力となっている状況であるが、それだけに頼ってられないので、瀬戸・高松広域連携中枢都市圏での取組として、その県域を巡る観光プランがいくつかある。100万円を超える寄付額で、2日から3日間程度、貸切りクルーザーで島々を周遊するプランに寄付をいただいたと伺っている。

その他についても、必要に応じて、創造都市推進局の担当課から、返

礼品にふさわしい物を紹介して、返礼品化していったものはいくつがある。

情報を持っているのは創造都市推進局側なので、今後、さらに、ふるさと納税で寄付いただける返礼品の候補があれば、納税課の方に情報提供して、連携をとっていきたいと思う。

【委員】

こどもプロジェクトの芸術士派遣事業について、令和3年は、令和2年の43ヶ所から73ヶ所になっているにもかかわらず、予算額は、同じくらいしかないが、これは同額の予算で、倍近い開催実績となるが大丈夫か（予算は足りているか）。

【委員】

運営に携わっている、私の方から直接お答えする。今まで43ヶ所というのは、公立施設に対しては、3年間行ったら3年間休むということで、自動的に数を調整しながら希望するところ全部に行っていなかった。令和3年度に、希望するところに全部行ってもらうにはどうしようかということで、実施回数を約半分にして、73ヶ所行くようにした。

今年はさらに増えて、93施設に、それも、今まで手を挙げていても行けなかった私立の幼稚園にも、高松市の方から派遣していただけるということによって、希望するところにはあまねく行けることとなっている。

それに伴って、基本的な総数がそんなに変わってないが、芸術士の数も増え、優秀な東京藝大卒業の音楽家がUターンして帰って来られて芸術士になってくれたような、そんなケースもでてきている。先ほどのお金のこと、御討議いただけたら面白いと思うが、市の財源だけではどうしても限りがあって、それほど増額することができない。

この芸術士活動は、本当にたくさんのお金を使っているが、受益者で負担するところが1つ。若しくはふるさと納税のような格好で、ピンポイントでこの事業に使ってほしいというようなお金の集め方があるのではないか。お金の使い方とか集め方というのは、こういった活動に関して、本当に小さなお金が集まってくるとか、若しくは企業協賛とかが出てくるのではないか。

例えば、私たちの事業で言うと、企業がこの活動に興味を持って、見

学に来た。そうすると、企業の社会貢献活動の一環で、この事業を応援にしようかという話になった。

高松市以外で行ってない周辺の市町村の中で、実施希望があるところを洗い出して、そこに派遣する芸術士の派遣費用は、社会貢献として寄付するという協賛が集まっている。そうするとこの事業が始まって保育園や幼稚園に芸術士が来たということで、周辺自治体で予算化され、高松市が蒔いた種が12年経って、周辺の市町村も広がっていったというような現象が起きてきた。その事例を横展開できないかと思う。

【委員】

参考だが、大阪府では、ふるさと納税型で、芸術団体を指定し、寄付を送るという仕組みをつくっている。

また、経済同友会のアーツサポート関西でも、“文楽支援基金”などのように分野を決めて、企業から基金を募るような仕組みもいくつかあるので、後程リンク等を、事務局に知らせるので皆さんで情報共有できたらと思う。

【委員】

今、お話をいろいろ聞いていて思ったが、地元の大学との協力でいろいろなプロジェクトをやっていることがあるのか。

先ほどの芸術士の話でも、例えば東京藝術大学で学ばれた方が、香川で、芸術士として活動される、その芸術士の活動も、美術、音楽、いろいろな形で取り組まれているのかと思う。

それと同時に、ぜひ地元の学生さんたちにもそのような場を与えていただければと思っていて、香川大学は、いろいろな研究されて、民間等工夫でいろいろされていることもあるし、当然、行政と一緒にやっていくこともあると思うが、もう少しクローズアップされることも増えたらいいということも今、お話を聞いていて思った。

大学生とコラボレーションして、何か新しいものをつくり出しているという事例があるか。

【委員】

大学との連携というのは、市の方ともやっているし、非常に多くの研究者や学生が行っている。我々の力不足もあって、クローズアップされ

るっていうところまでいけてないところはあるかもしれない。あらゆる階層でかわりはあることは事実。

ただそれをどう進化させていったりとか、先ほど、創造都市のいわゆる目玉プロジェクトみたいなものを育てていこうという話もあったと思うが、今は各課の成果紹介が中心になっているので、例えばU40だったり、みんなで考える場づくりが、これまで、この創造都市推進審議会ができてからやってきている。

思われている水準まで達していないと思うので、課題をしっかりと認識しながら、この会議の中でも考えていきたいと思う。

【委員】

四国学院大学の方では、大学なので、地域と連携することを、第1の目標にしていらないが、当然今のような時代なので、地域が抱えている課題について、大学にある材料を使って、連携して何かやっていくことは大きな方向性としてはある。

演劇活動が、我々の教育の中で非常に大きな位置を占めるということで、地元の人たちと一緒に作品を作ってみたりして、プログラムを実施している。それと同時に、丸亀市が市民会館を作っているが、箱は作ったけど、中身がないのが今までの文化行政の大きなポイントであったが、最初に中身を考えて、そこから何をしていく空間であるかを考えていくという流れをとっている。社会の中で、いわゆる文化ホールに一番遠いところにいる人たちが、集える場所にしようということで始めた。

我々の演劇の方では、ホールに来られない人たち、今まで来なかった人たちを、どういうふうに活動しながら、ホールと近づけていくかというプログラムを作って、サンプルとして色々な活動を行っている。

それから、何かを撮るのが好きだったとか、歌が好きだったとかいう、全然違った生き方をしてきた方々が、どうやって文化になっていけるかというプロジェクトを進めている。

評価としては、なかなか出せないが、15年ぐらいの活動の中で、少しずつ定着したものがあるので、それが何かの成果であればいいと思う。

それからスポーツ活動では、ベースボールとサッカーと陸上は今大きなポイントになっているので、そういうことをやる人たちと、それからそれを目指す人たちとの交流というのをできるだけやろうとしている。

大学の方も孤立しているわけではなく、地域とのつながりの中で教育も行われていくわけなので、十分につながりができればよい。

【委員】

今年度、香川大学で、イノベーションデザイン研究所というのができた。ハコモノと言われるような批判もあるとは思いますが、そこをどう使うかというところで、主に民間企業と連携して、例えばデジタル化に関する実証実験や、その他、主に工学部の先生と連携したようなプログラムも行っている。大学との連携を考える時には、地域連携センターや地域連携人材センター等、大学内でもいろんなセンターができて、外とつながるようなチャンネルを大学側も作っていったところである。

5、6年前になるが、工学部を創造工学部に改装し、その際に、造形・メディアデザインコースが新しくできた。

そこの先生や学生は、外部の社会課題を持っている力で解決しようというような取組をコンセプトでやっているところが多いので、ぜひ声掛けをして連携していただければありがたい。

創造都市ということで様々な方と連携しながら、目玉プロジェクトをどう育てていくかはすごく大事だと思う。金沢なら、21世紀美術館ができたことで、芸術振興だけではなくあらゆる分野に大きな波及効果があったと思う。

例えば、やしまーるが新しく完成したが、やしまーるの今後の展開として、こんな風に盛り上げていきたいというような構想があるようなら、お聞きしたい。

もう1点は、創造都市推進局が担当ではないかもしれないが、県の方の関係で、庵治地区のコミュニティづくりにかかわっており、高松市の方では、道の駅事業で、塩江の方に、少しだけかかわっていたりする。その際に、庵治も塩江も合併した町で、昔は役場があって、ある程度自治機能があり、総合的に政策を考えるような人材がいたと思う。

それを、コミュニティ協議会の方で考えるように形式上はなっているが、その実情を聞くと、ある程度公的なお金の使い道等を決めるセンター長が、民主的な手続きで選ばれていないので、それが長年続いているというような批判もあったりする。

これらをどこに話しすればよいか分からなかったために、この創造都市の会議でもそういった課題があるということを知っていただきたい。

要はその合併町のごとで置き去りになっているところがあるのではないかとこのところを認識いただきたい。

【事務局（文化芸術振興課）】

やしまーるの活用の部分を説明させていただきたい。現在、やしまーるについては、指定管理者で、施設の管理等をしていただくようになっているが、指定管理者の方においても自主事業というものの展開も考えられている。

文化芸術の関係においては、音楽のイベントやパフォーマンス、伝統芸能などを実施したいという方が多くいらっしゃることも伺っている。

我々としては、ただ単に指定管理者に、管理をお願いするのではなくて、我々が創造都市推進局の立場で、文化や観光を結びつけながら、有機的にやっていくような仕事だと思っている。

屋島という場所に、やしまーるができたということは、ただ単に、建築物ができたというよりも、屋島全体のガイダンス施設的なものであるべきだと思っている。

意見を踏まえて、指定管理者だけにイベントをお願いするのではなくて、文化財であったり、文化や観光であったり、様々な創造都市推進局の横軸でできることを、これからもやりたいと思うので、審議会委員の皆様のご意見もいただきながら、進めていきたい。

【委員】

先ほどの大学との関係でいうと、県の環境管理課のプロジェクトで、日本財団のお金を使って、海ごみと川ごみのような、川から流れてくるごみについて、調査なり、清掃活動をしていこうという動きがある。香川大学がすぐ近くにある川で実施した際、大学の経済学部のご先生方に相談し、学生さんたちが参加をしてくれた。若い人がたくさん来て、特に市場関係者がすごいパワーを持ってたくさんの方数で、一斉に清掃活動したことに、大学生がたくさん絡んでもらえて本当によかったと思う。

市場を中心に、清掃環境活動と、もう1つはその市場を中心に、観光コースを作ろうという動きもある。とてもユニークな事例として、皆さんに御紹介したい。

また、県産品のPRでさぬきマルシェをやっているが、授業の一環で高松大学の学生さんたちがお店を出し、自前で県産品の商品を見つけて

きて自分たちのお店でそれを仕入れるようなことをしている。

それに触発されて、高松商業のプロジェクトで高校生がいくつかお店をマルシェに出したり、坂出第一高校の面白いプロジェクトといくつかコラボレーションしたりしている。

【委員】

障がい者アートリンク事業というのがあるが、障がい者の方をアーティストとして登録して、デザインしたものを世界中に販売するような会社が今話題になっている。そのアーティストが四国だけ1人も登録者がいないので、よかったらおつなぎしたい。

収益性もあり、エコバックやクッション、布団や帽子を販売されるので、高松からも、ぜひ、そういうところに登録される人が出て欲しいし、何かそういう目標があった方がいいと思った。

【委員】

庵治石のことで言えば、今年、2年間休んでいた石あかりロードを、3日間だけ行う。葛藤はあったけれども、一度休むと、次の若者たちがそれをやろうという意欲があるかどうかというのがあって、とりあえず3日間だけやる。

私の夢は庵治半島を、ふらっと仏生山じゃないけど、日曜日、どこ行くってなったときに、じゃあ庵治行くって言うてもらうこと。石あかりロードもあるし、庵治の景色もあり、美術館もある。私が関係している、ジョージナカシマ記念館もあり、一周すると、道の駅でおいしい食材があるし、今年は、しらすが豊漁で、たくさん買うという方もいらっしや、今、特にゲストハウスが庵治牟礼地区にできつつあるので、大阪や神戸からも人が来ていて、名のあるアンティークショップもある。

もう1つは、石屋さんの職人って色々なことができるので、今までやってきたことをアートに持っていきたい。現代アートによっては、色々なことを提案していける、出していける。

我々は、10月22、23日に、瀬戸内サーカスファクトリーさんとコラボでサーカスをする。環境共生型のサーカスをやっているなので、そこで共感してコラボのお話をする時間をいただいた。

アーティストはゼロから1をつくり出せる人。我々、石屋は1を10はできるが、0から1以上の練習を今までやってなかった。なので、今

まで映画作ってみたり、お芝居だったりやっていたけれども、そういう認識を何とかできればとは思っている。道は長いが、庵治半島は楽しいところなので人が来てくれると嬉しい。

それともう1つお願いは、以前も言ったが、我々、民間は、発信量が少ない。物が作れるけれども、それを外に発信する力がなかなかない。

創造都市推進局のSNSの表現が硬い。これだけの方がいろんなことやっているものが全部網羅できていないのだったら、例えば、高松市のサイトマップ的なものをネット上でやって、今、海行きたい、山行って遊びたい、何か見たいっていうときにそこを見れば分かるようにしたい。そういうものが想定されるような、信用力のある発信をお願いできればと思う。我々の発信力が弱い部分を助けてほしい。

【副会長】

資料で、市民満足度調査において、「住みよい」と「まあまあ住みよい」という回答をしたのが、90.8%。この回答がすべてを語っているような気がする。高松市に対する満足度が高いのではないかと感じている。

商工会議所としては、必ず1年に1度、高松市長と商工会議所の会長・副会長で、懇談会をしているが、そのテーマは、経済的なものが多く、結果としてふんわりした感じで進んでいる。

1年に1度の懇談会が大事だと思っているが、今回、このU40が企画した高松市の通信簿というのを拝見して、とても楽しみではないかと思う。通信簿をつけて、市長に意見を伝えるというのは、素晴らしい企画で、40歳までの方の意見を集約するというので、どういうことが出てくるのか楽しみである。

【委員】

コロナの関係で、それぞれの作業が非常に大変な時期だったわけだが、3年度に関しても、その中で、非常に努力されてそれぞれのところが、成果を上げられているというのが最初の感想である。

確かに中止することに関しては中止と書いてあるが、非常に苦勞されて、最終的に中止になったけれど、いつもだったら考えなかったようなことをたくさん考えられたと思う。

今回、2年間良い部分があったと言えるのであれば、どの領域において

も、そういう日頃考えられなかったことを考えたということ。

これはもう非常に私たちの貴重な財産として、先へつないでいけるものだと感じながら、資料を見ていた。

3年度に関しては、少しでも先へ行こうという試みがされて、対前年度ではないような数字を残している部分もあり、予定どおりできなかったのもあるけれども、この状況下でやったということは1度、評価しておくべきじゃないかと思う。

それからもう1つ、今まで担当部局が多岐にわたって、それぞれのプログラムごとに、事務局が違うので創造都市推進局としては非常に大変ではないかと思っていたが、それぞれが非常に責任を持ってやってきたからできたという部分もあるかと思う。

だから、それぞれの部署でやるものを創造都市推進局として束ねていくというエネルギーはこれから継続的に必要だと思うので、そのあたりを突破していけるエネルギーが出てきたらよい。

これは、参加していく市民の一人一人の力にもよるもので、事務局だけでできるものではなく、実際に人々が楽しまないといけない。市民の方も参加できるような、広がり伝えていけるようなことになればよいと思っている。

高松に対する愛着について皆さま方の思いはあるが、結果的にもいろいろ出てきているというのは、嬉しいところ。今まで市内の施設をそれほど細かくは見てなかったが、それこそ機会があつていくつかの施設を見て、それぞれに非常に思いを込めてやっておられるのだなというのを感じた。ビジョンの中で、非常に大きな柱となっているこどもプロジェクトをどのように育てるのか、うまく先に進むように考えられたらよい。

【委員】

今回でこの会議は最後の参加となるが、本当に2年間、色々考えさせていただいた。デジタル化が一気に進んで、色々なことが急激に進んだのではないかと思う。

俗に言うWEB3.0というのも出てきて、アートの中でも、NFTをどう捉えていくか。また、職人・作家が収入を得られるような、収益性をどう高めていくというような色々な課題に将来性を見いだしていきたいと思う。

創造都市推進局もWEB3.0も勉強していただいて、色々な議論ができるようにしてほしい。

【委員】

総論的な話になるが、振り返ると、この2年間、コロナに振り回されたということで、すべての事業が影響を受けたが、その中で、コロナ対策をしながら事業はプラスになったものがあるということは、評価すべき。

創造都市推進ビジョンは5年ごとに作られている。来年度、次期ビジョンが作成されるが、むしろ今までの流れをそのまま受け継ぐのではなく、思い切って変えるというような形で取り組んでいただきたい。

もう1つ提案だが、私が職人の育成塾をやっているが、卒業後にそのままに移住する人が多い。これは高松市が住みやすいと同時に、仕事があるということである。

今までは、この議論のほとんどが外部から人を集めて、成果があったとかいう視点でものを考えているが、むしろ人口減少の中では、創造都市として魅力を持ってきてもらえるというような観点から、ぜひ次回のビジョンの中には、移住というテーマを入れていただきたい。

【委員】

一般社団法人シェアリングエコノミー協会の四国支部の支部長になっている。デジタルを通じて地域課題を解決していくということで香川大学の学生さんとプロジェクトを一緒にやっている。高松市やいろいろな自治体とも連携してやっていきたいと思うので、また何か御提案とか協議をできたらと思う。

【委員】

(屋島山上ちょうちんカフェ紹介)

【会長】

創造都市推進審議会が大変楽しい雰囲気で開催できて、本当によかったと思う。

何人かの方は、今回で卒業となるので、シニア創造都市会議のように、いずれ卒業生で集まってもよいかもしいない。

それから、この会議は、毎回市役所以外でやろうという提案をしていて、あちこち、例えば玉藻公園の中や栗林公園の中でもやらしていただいた。

その時々で、話題になるような会場を設定して、今回は仏生山ということで、これは事務局の方は大変だと思うが、やはり新しいアイデアを出そうという場合には、その環境や雰囲気的大事なので、次に開催するときは、例えばやしまーるを会場にして、指定管理の方々との意見交換を試みたいと思った次第で、引き続き、この審議会を盛りあげていただきたいと思いますと思っている。

本日は、ありがとうございました。

(創造都市推進局長から挨拶)

4 閉会

(事務局から開会挨拶)